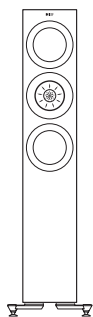
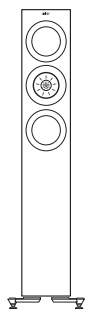


R11 Meta



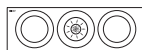
R7 Meta



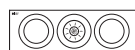
R5 Meta



R3 Meta



R6 Meta



R2 Meta



R8 Meta

ユーザーマニュアル

Rシリーズ

目次

1. はじめに	4
1.1 記号・注意喚起/用語の意味	4
2. 開梱	5
2.1 R2 Meta/R3 Meta/R6 Meta/R8 Meta	5
2.2 R5 Meta/R7 Meta/R11 Meta	5
3. ボックス内	6
3.1 R3 Meta	6
3.2 R2 Meta/R6 Meta	6
3.3 R5 Meta/R7 Meta/R11 Meta	7
3.4 R8 Meta	8
4. スピーカーの取り付け	9
4.1 ゴム足の取り付け	9
4.1.1 R3 Meta	9
4.1.2 R8 Meta	9
4.1.3 R2 Meta/R6 Meta	9
4.2 台座の取り付け	10
4.2.1 R5 Meta/R7 Meta/R11 Meta	10
4.3 床置き型スピーカーの設置	11
4.4 ブックシェルフスピーカーの取り付け	11
4.5 センタースピーカーの取り付け	12
4.6 他のスピーカーへのR8 Metaの取り付け	12
4.7 R8 Metaの壁への取り付け	13
5. スピーカーの配置	15
5.1 リスニングスペースとUni-Qドライバーアレイ	15
5.2 スピーカー配置の重要性	15
5.3 スピーカーの設置	16
5.3.1 ステレオシステム	16
5.3.1.1 ステレオシステムの配置	17
5.3.2 ホームシアターシステム	18
5.3.2.1 5.2または7.2システムの配置	19
5.3.2.2 5.1.4システムの配置	20
5.3.2.3 7.1.4システムの配置	21
5.4 でこぼこのある部屋での配置	22
5.5 ルームモードの管理	24
6. 接続	25
6.1 シングルワイヤーまたはバイワイヤー接続	25
6.2 両増幅	26
6.3 接続する	26
6.3.1 R3 Meta/R5 Meta/R7 Meta/R11 Meta	26
6.3.2 R2 Meta/R6 Meta	27
6.3.3 R8 Meta	27
6.4 ケーブルゲージと長さ	28
7. 微調整	29
7.1 ポート栓	29
7.2 調整済みの足を使用する	30

8. ならし運転	31
9. お手入れとメンテナンス	32
9.1 スピーカーの清掃	32
9.2 マイクロファイバーグリルの使用と保管	32
9.3 マイクロファイバーグリルの清掃	32
10. 廃棄	33
10.1 梱包資材の廃棄	33
10.2 スピーカーの廃棄	33
11. よくある質問とトラブルシューティング	34
11.1 一般	34
11.2 床置き型スピーカー	34
11.3 本棚（ブックシェルフ）やスタンドに設置されたスピーカー	34
11.4 LCR（左/中央/右チャンネル）	35
11.5 Dolby Atmosスピーカー	35
11.6 お手入れとメンテナンス	36
12. 別紙	37
12.1 仕様	37
12.2 寸法図	44

1. はじめに

KEF RシリーズHi-Fiスピーカーをお選びいただき、ありがとうございます。

Rシリーズの7種類のスピーカーモデルは、デザインごとに絶妙なディテールと
きわめて高い洞察力を備え、音を出力します。

クラフツマンシップ、イノベーション、受賞歴のあるメタマテリアル吸収技術
(MAT)を融合させたRシリーズは、音楽用ステレオでもホームシアターでも、高性
能オーディオをこれまで以上に多用途で利用しやすいものにしています。

スピーカーシステムを使用する前に、本ユーザーマニュアルをよくお読みになり、
指示に従ってください。

1.1 記号・注意喚起/用語の意味

本ユーザーマニュアルでは、次の記号と注意喚起用語が使用されています。

▲ 警告!

この記号・注意喚起/用語は、中程度のリスクを持つ危険
を示し、回避しない場合は死亡または重傷を負う可能性
があります。

注意!

この記号・注意喚起/用語は、物的損傷の可能性を警告す
るものです。



この記号は、取り扱いと使用に関する、役立つ補足情報を
提示するものです。

2. 開梱

注意!

損傷の危険性!

スピーカーの取り扱いを誤ると、破損の原因になります。

- ・ 取り扱う際にスピーカードライバー（コーン）に触れたり押したりしないように特に注意してください。

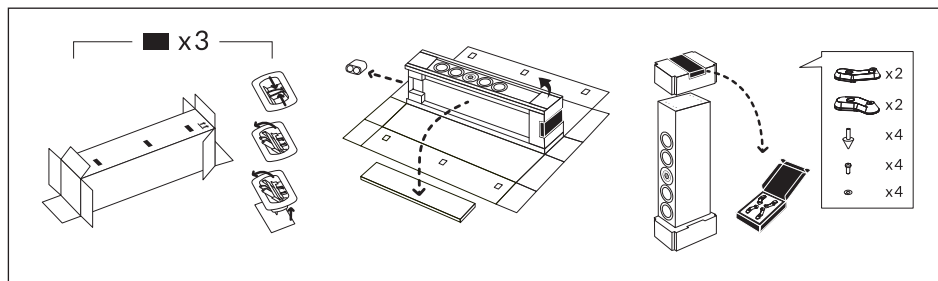
次の手順に従って、スピーカーを開梱してください。

2.1 R2 Meta/R3 Meta/R6 Meta/R8 Meta

1. スピーカーの梱包箱を、床または安定した表面に配置します。
2. 上端の梱包用テープをカットしながら開きます。印刷された資料とポート栓を取り出します（R3メタのみ）。
3. スピーカーを取り出すには、上部の保護キャップを取り外し、スピーカーを梱包箱の上部から取り出すか、または上部の保護キャップを維持しながら梱包箱を長辺で逆さまにしてください。

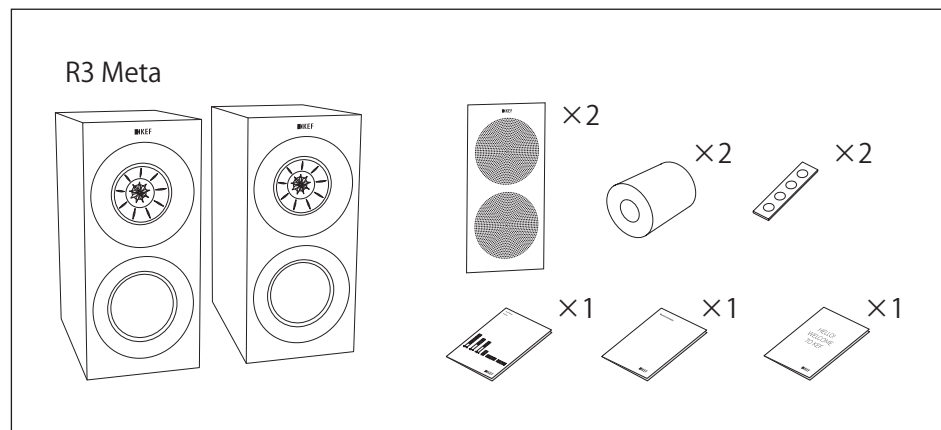
2.2 R5 Meta/R7 Meta/R11 Meta

1. スピーカーの梱包箱は、プラスチック製のクリップ側を上にした状態で平らな床に水平になるように置きます。梱包箱の両端にあるシーリングテープをカットしながら開き、側面のプラスチック製クリップを取り外します。
2. 梱包箱を完全に開けると、中にあるパッケージが現れます。スピーカーのグリルボックス（側面）、ポート栓と、すべての長辺の支持材の紙のコーナー保護材を取り出します。
3. アクセサリーボックスを上にし、スピーカーを逆さまにします。アクセサリーボックスを取り出して、中身を確認します。

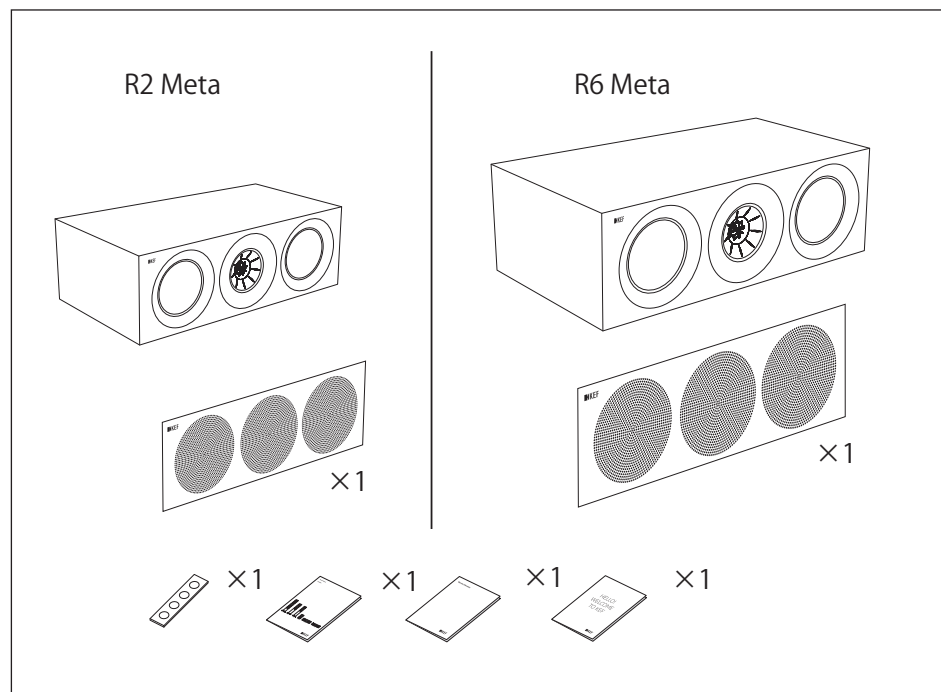


3. ボックス内

3.1 R3 Meta

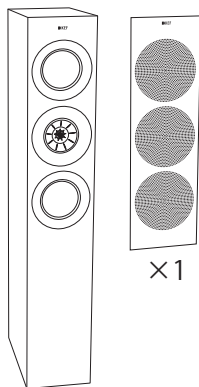


3.2 R2 Meta/R6 Meta



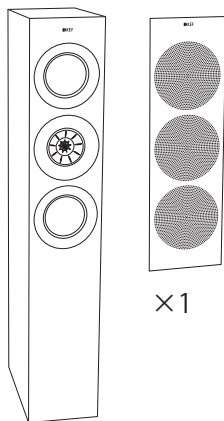
3.3 R5 Meta/R7 Meta/R11 Meta

R5 Meta



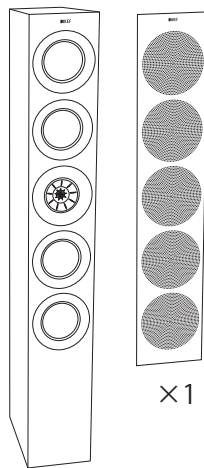
×1

R7 Meta

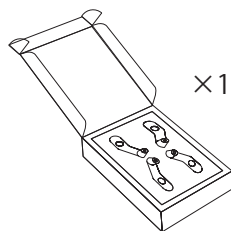


×1

R11 Meta



×1



×1



×2



×1

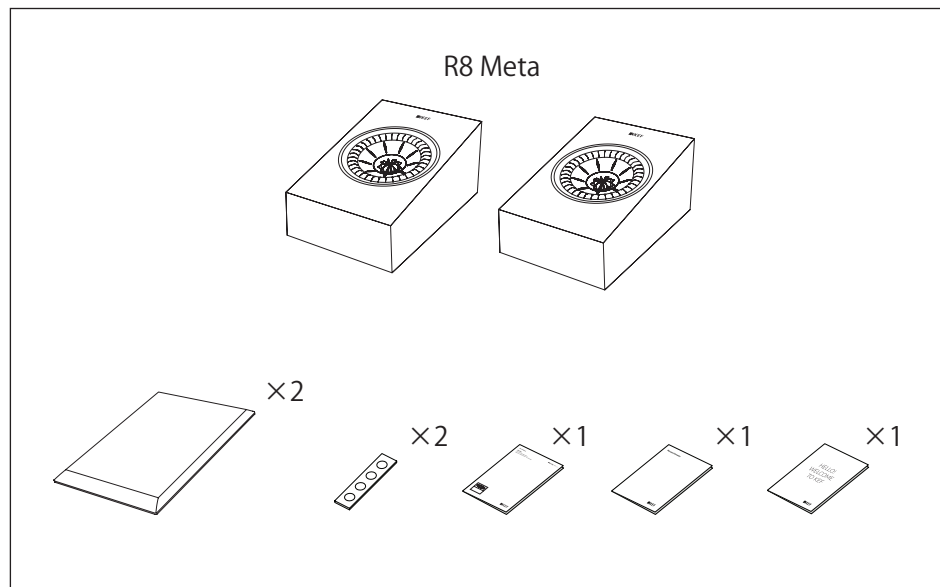


×1



×1

3.4 R8 Meta

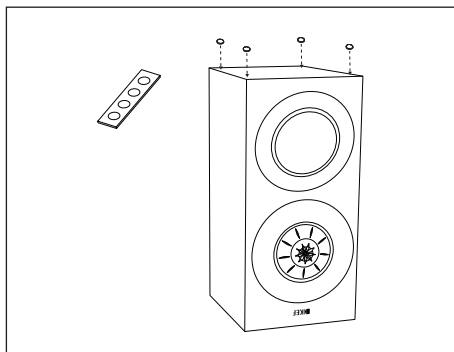


4. スピーカーの取り付け

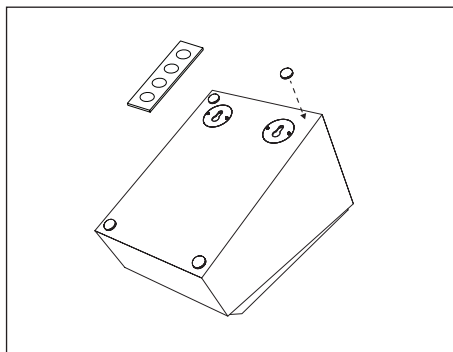
4.1 ゴム足の取り付け

付属のゴム足を装着すると、スピーカーを接触面から分離するのに役立ちます。これにより、スピーカーと近くの家具や物体との間で防振でき、ノイズや共振を回避できます。

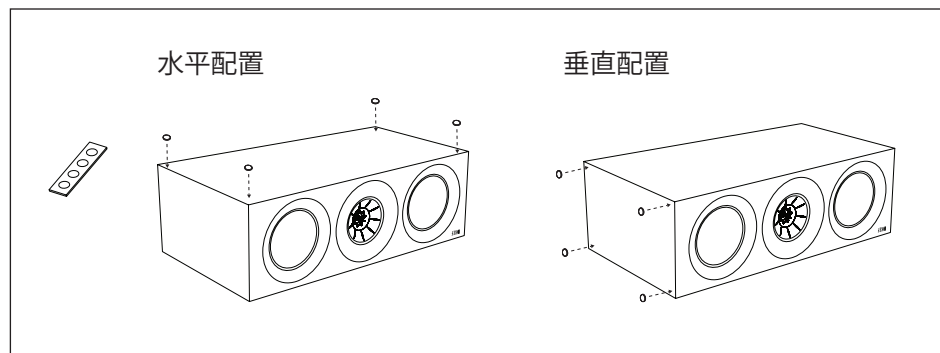
4.1.1 R3 Meta



4.1.2 R8 Meta



4.1.3 R2 Meta/R6 Meta

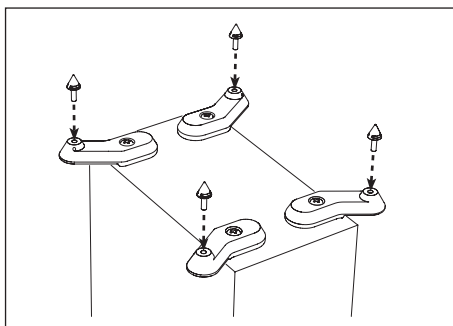
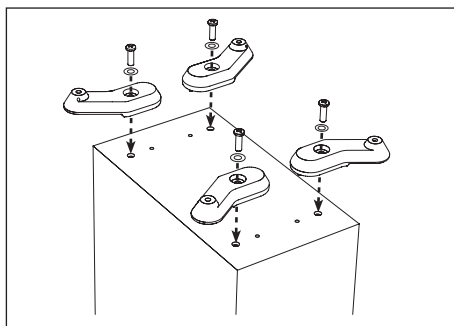


4.2 台座の取り付け

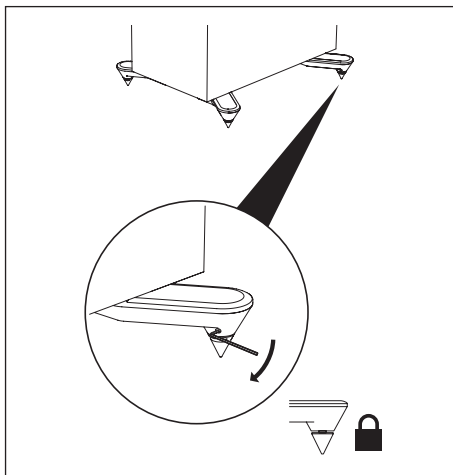
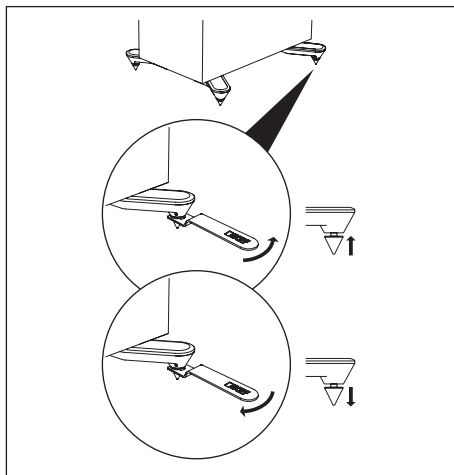
4.2.1 R5 Meta/R7 Meta/R11 Meta

本スピーカーは、取り付け面を床面のみとしています。安定性を確保するために、可能な限り付属の台座とスパイク足を使用して、スピーカーが床にしっかりと立っていることを確認することが重要となります。

1. 台座を、スピーカーの下側にある取り付け穴に合わせます。付属のネジとワッシャーを使用して、台座を固定します。
2. 付属のスパナツールを使用して、台座にスパイクを取り付けます。

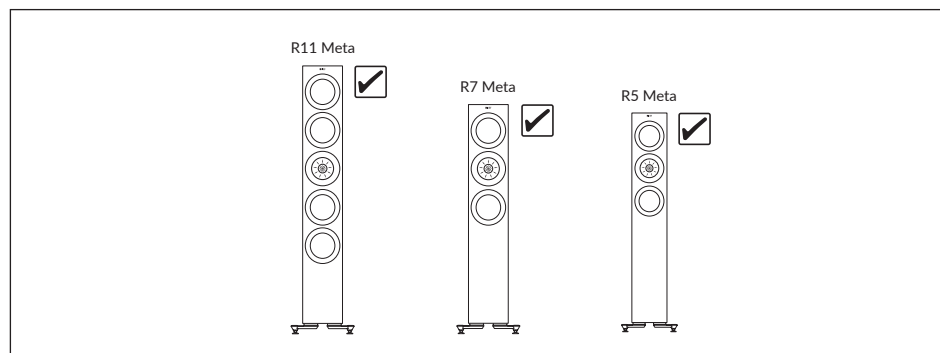


3. スピーカーを床に置いたときにぐらつく場合は、付属のスパナツールを使用して、スパイクがすべて床に触れ、スピーカーが床にしっかりと立つまで、スパイクの高さを調整します。
4. 最後に、付属の六角レンチでグラブネジを締めて、スパイクをロックします。



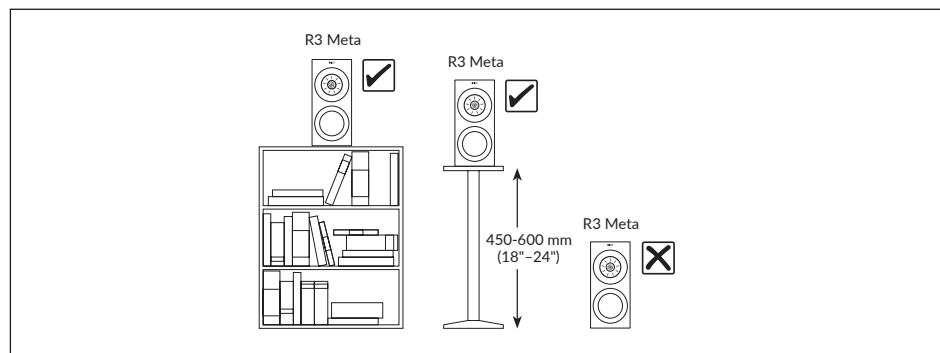
4.3 床置き型スピーカーの設置

床置き型スピーカーの下部で、台紙を常に使用して、スピーカーを頑丈でしっかりした安定した平らな面に置いてください。



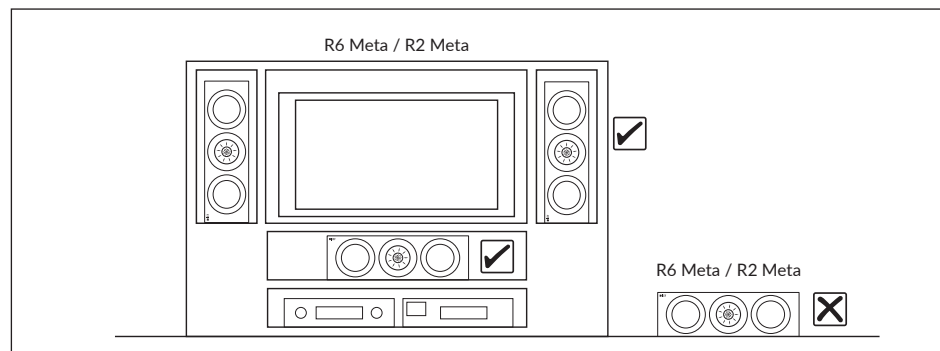
4.4 ブックシェルフスピーカーの取り付け

ブックシェルフスピーカーは、常に棚やスタンドに置いてください。それらを床に直接置かないでください。



4.5 センタースピーカーの取り付け

中央のスピーカーを画面の中心線に常に合わせ、テレビの上または下、または穴の開いたプロジェクタースクリーンの真後ろに配置することができます（プロジェクタースクリーンの製造元に問い合わせて、スクリーンが音響的に透明であることを確認してください）。センタースピーカーを床に直接置かないでください。



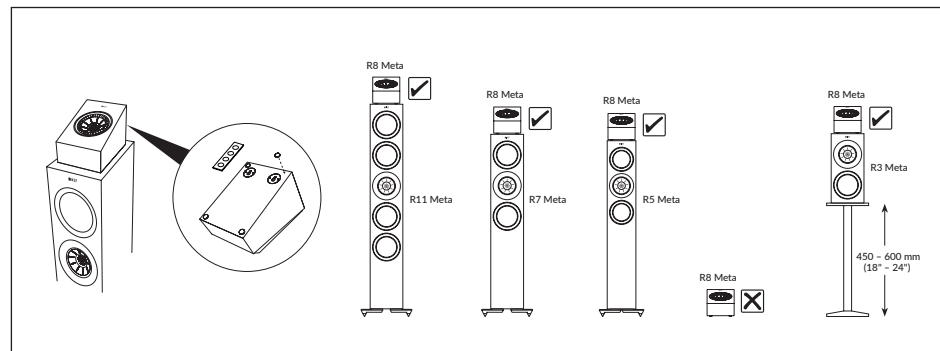
4.6 他のスピーカーへのR8 Metaの取り付け

注意!

損傷の危険性!

スピーカーの取り扱いを誤ると、破損の原因になります。

- サラウンドスピーカーの下部には必ずゴム足を使用し、床置き型スピーカーまたはブックシェルフスピーカーの上に置いてください。それらを床に直接置かないでください。



4.7 R8 Metaの壁への取り付け

▲ 警告!

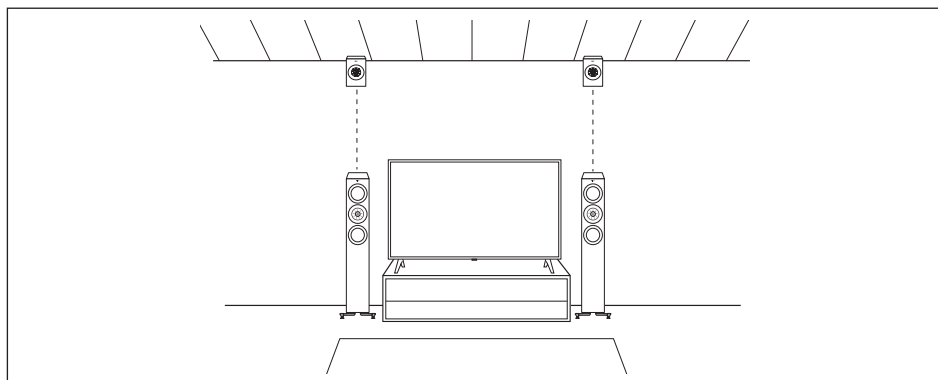
怪我や損害の危険!

不適切な取り付けにより、怪我や損傷を招く可能性があります。

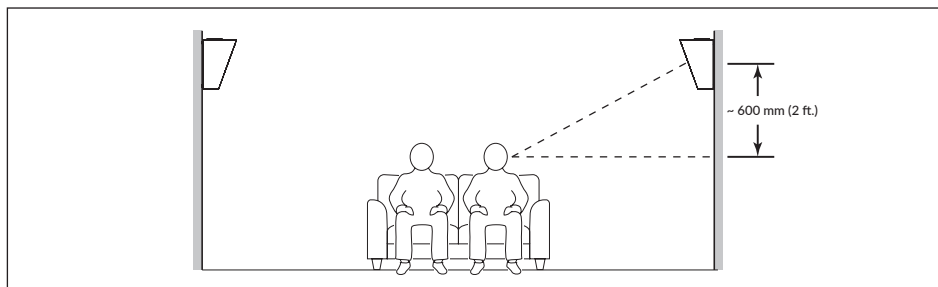
- 電気ケーブル、水道管、ガス管、根太を切り抜けようとしていないことを確認した場合を除き、壁にスピーカーを取り付けようとしてはいけません。

R8 Metaは、別のスピーカーの上で使用できるDolby Atmos対応スピーカーとして、また他にも壁掛け型Dolby Atmosスピーカーや壁掛け型サラウンドスピーカーとしても使用できます。

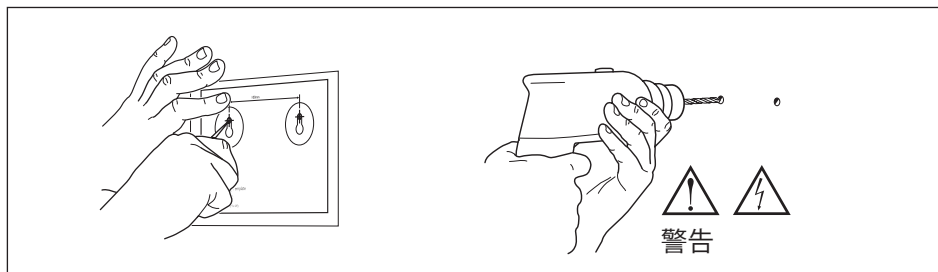
壁掛け型Dolby Atmosの場合、R8 Meta、はフロント/リアスピーカーとほぼ同じ幅で、壁/天井の端にできるだけ近づけて設置してください。



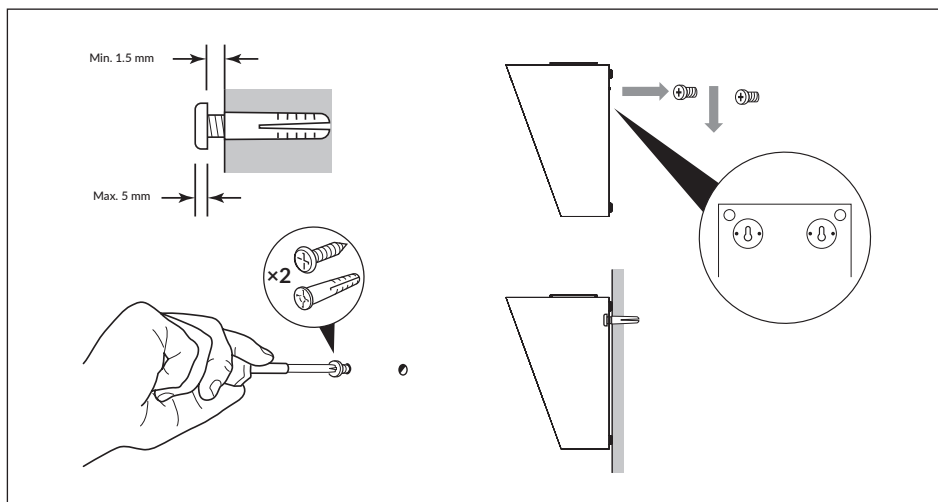
壁掛けサラウンドスピーカーとして、R8 Metaを目的の場所に取り付けて、Uni-Qドライバーがリスニングエリアのヘッドの高さを向くようにし、必要に応じて調整します (通常は耳の高さから600mm (2フィート) 上方)。



1. 設置場所を決定し、付属のテンプレートを使用して穴あけポイントをマークします(「寸法図」の章をご参照ください)。
2. 電気ドリルで、壁に2つの穴を開けます。



3. 一対の中空壁の固定具(付属していません)をドリル穴に差し込み、2本のネジ(付属していません)を固定具に取り付けます。突起物に注意し、必要に応じて撤去を行ってください。
4. 飛び出ているネジの頭部にスピーカーを掛けます。



5. スピーカーの配置

5.1 リスニングスペースとUni-Qドライバーアレイ

KEF Rシリーズのスピーカーシステムには、すべてUni-Qドライバーアレイが装備されています。Uni-Qテクノロジーは、スピーカーの配置の柔軟性を大幅に向上させ、さまざまなリスニング環境でのリスニング体験を向上させるように設計されています。

ツイーターを低音/中音域のコーンの音響中心に正確に配置したこのユニークなデザインには、さまざまなスピーカーの配置に適した次のような利点があります。

- よりコヒーレントで時間に沿った音の分散を確保し、位相の問題を減らし、軸外応答を改善します。室内の様々なリスニングポジションから、より安定した音質をお楽しみいただけます。
- より広いリスニングスイートスポットを作成し、スピーカーの正面にいらなくても軸上で高品質のサウンドを体験できます。
- 音質を損なうことなく汎用性の高い配置選択を可能にします。スピーカーの配置を、お部屋のレイアウトやリスニングの好みに合わせて柔軟に調整できます。

5.2 スピーカー配置の重要性

Uni-Qドライバーアレイがもたらす利点を楽しむ以外にも、可能な限り最高のオーディオパフォーマンスとリスニング体験を実現するにはやはり、部屋でのスピーカーの配置が最も重要となります。

スピーカーを適切に配置することの利点は次のとおりです。

- 空間で最高のオーディオ品質を得るための理想的なリスニングエリアを作成できます。
- サウンド、ボイス、または楽器が特定の場所から届いているような、明確な設定に基づく没入型のサウンドステージを設定できます。
- 室内の表面（壁、床、天井など）の反射を制御して、明確なイメージングと正しい色調バランスを実現できます。
- 部屋の共鳴（低音のキャンセルや強調を引き起こす可能性のある定在波）を最小限に抑え、システムの知覚される音色バランスを強化できます。

5.3 スピーカーの設置

次の手順に従って、スピーカーを最適な音質に設定してください。

1. 部屋の寸法、形状、建築材料に注意してください。部屋のサイズや形状によって、音が表面に伝わり、相互作用する方法が変わり、スピーカーの配置の選択に影響する可能性があります。

窓や鏡など、表面の硬い大きな空きスペースは、音響の問題をより多く引き起こす傾向があります。可能であれば、家具、カーテン、敷き物、その他の柔らかい家具を設置し、音の拡散と吸収に役立てることをお勧めいたします。

2. 音楽を聴いたり映画を見たりする際に座ることの多い場所を特定します。

- 可能であれば、壁のすぐ近くにある主要なリスニングポジションは避けてください。
- 部屋が長方形の場合は、テレビとスピーカーを短い方の壁の1つにて設置し、部屋の長い方の壁法にスピーカーを向けるのが最も理想的です。

本ガイドラインは参照専用です。リスニングスペースと好みは個人によって異なります。自由に試してみて、最も楽しむ設置場所を見つけてください。

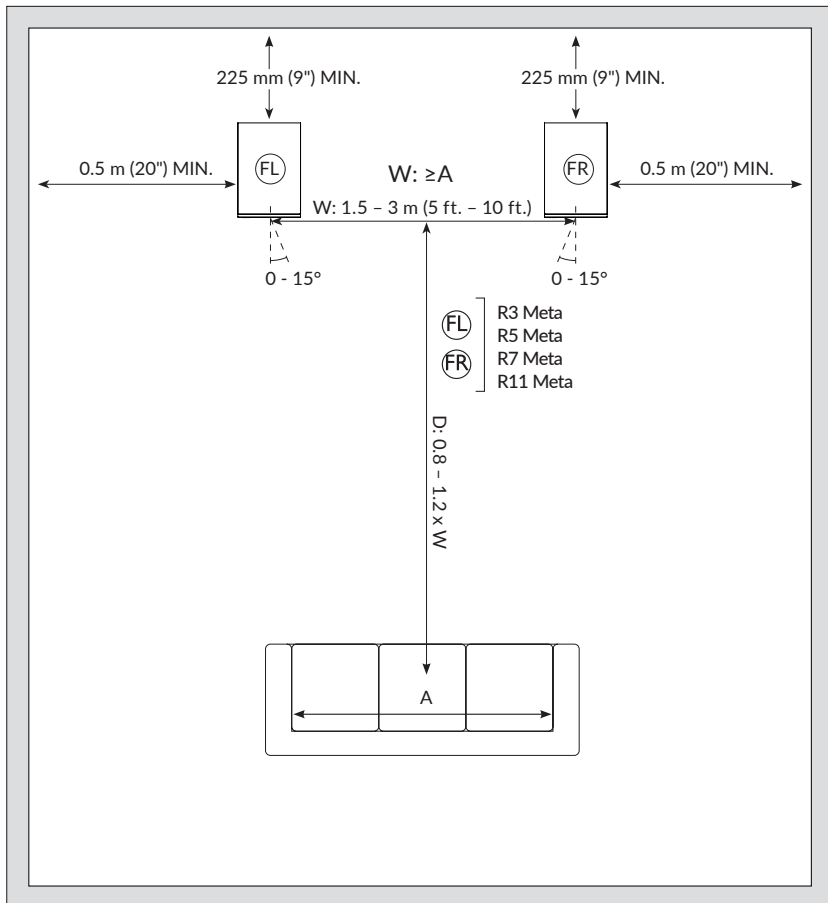
5.3.1 ステレオシステム

- ステレオシステムでは、2つのフロントスピーカーを主要なリスニングエリアの中間点から等距離に配置して、等角三角形を形成するようにします。これにより、最高のステレオイメージングを実現するのに役立ちます。
- 理想的には、スピーカーは1.5mから3m離れている必要があります。距離は、リスニングエリアの幅と同じかそれ以上にする必要があります。
- 対称性は最適なステレオのために非常に重要です。部屋のレイアウトでスピーカーとリスニングエリアが対称になるようにしてください。理想的には、スピーカーの左右の側壁は、同じ距離にあり、同じ構造である必要があります。
- 理想的には、壁（「フロントウォール」とも呼ばれます）は、フロントスピーカーの真後ろに配置します。両方のスピーカーがこの壁から同じ距離にある必要があります。スピーカーと「フロントウォール」の間の距離は、通常、低周波チューニングで最も感度の高いパラメーターです。低音レスポンスと全体的なサウンドの間の最良の妥協点を見つけるために、さまざまな距離で実験してみてください。理想的には225mm（9インチ）未満であるべきですが、これが満たされない場合は、ポート栓で調整することをお勧めいたします（「[ポートバング](#)」の章を参照）。
- スピーカーと側壁との間に少なくとも0.5m（20インチ）の距離を保つことをお勧めいたします。

- Uni-Qテクノロジーを搭載したKEF Rシリーズスピーカーはリスニングのスイートスポットが広く、トーンインなしでうまく機能します。ただし、さまざまなトーンイン角度を試して、ステレオイメージを好みに合わせてさまざまな微調整を実験してみることをお勧めいたします。

5.3.1.1 ステレオシステムの配置

i スピーカーを配置する際は、推奨距離に注意してください。



チャンネルの略称:

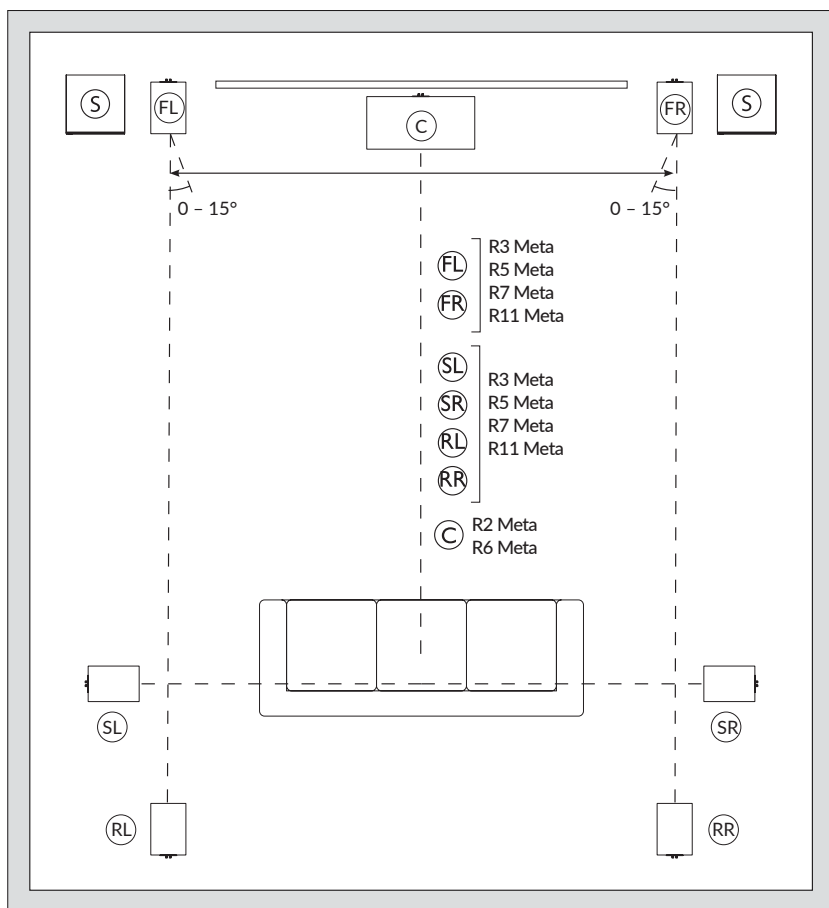
FL = フロント左、FR = フロント右

5.3.2 ホームシアターシステム

- ホームシアターを設置している場合は、センターチャンネルスピーカーを、常に画面の中心線と水平に、できるだけ画面に近づけるように配置します。テレビの上または下に設置することも、穴あきプロジェクタースクリーンのすぐ後ろに配置することもできます（プロジェクタースクリーンの製造元に問い合わせて、スクリーンが音響的に透明であることを確認してください）。主要なリスニングエリア向きになるようにする必要があります。センターチャンネルのスピーカーを正しく設置することが、ホームシアターシステムのサウンドの鍵となります。
- フロントの左右のメインスピーカーについては、5.3.1ステレオシステムのガイドラインが引き続き適用されますが、音声画像を視覚画像に合わせて維持するために、画面の両側近くに配置することをお勧めいたします。
- サブウーファーをお持ちの場合、低音周波数が無指向性ですから、配置の柔軟性が高まります。さまざまな配置で実験してみて、最も均一で自然な低音レスポンスが得られる場所を見つけてください。一般的には、角や壁に沿った場所が人気です。しかしながら、サブウーハーを隣接する壁に近すぎる場所に設置することは避けてください。
- サラウンドスピーカーの場合は、次の図に示すように、主要なリスニングエリアの脇または少し後ろに配置します。

5.3.2.1 5.2または7.2システムの配置

i スピーカーを配置する際は、推奨距離に注意してください。

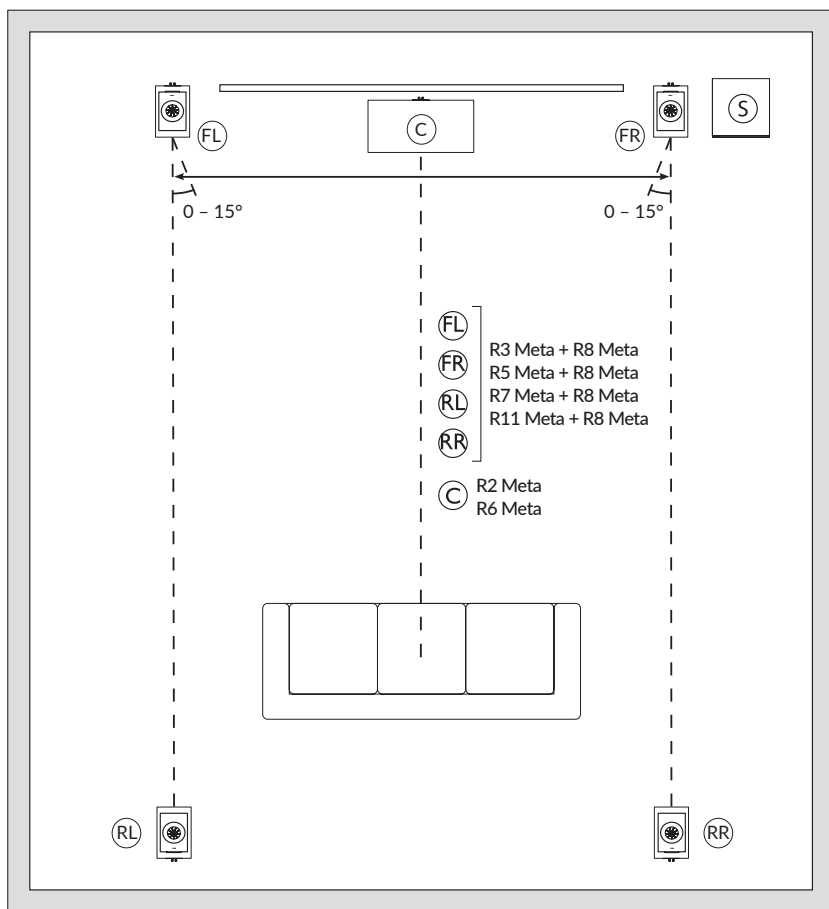


チャンネルの略称：

FL = フロント左、FR = フロント右、SL = サラウンド左、SR = サラウンド右、RL = リア左、RR = リア右、
C = センター、S = オプションのKEFサブウーファー

5.3.2.2 5.1.4システムの配置

i スピーカーを配置する際は、推奨距離に注意してください。

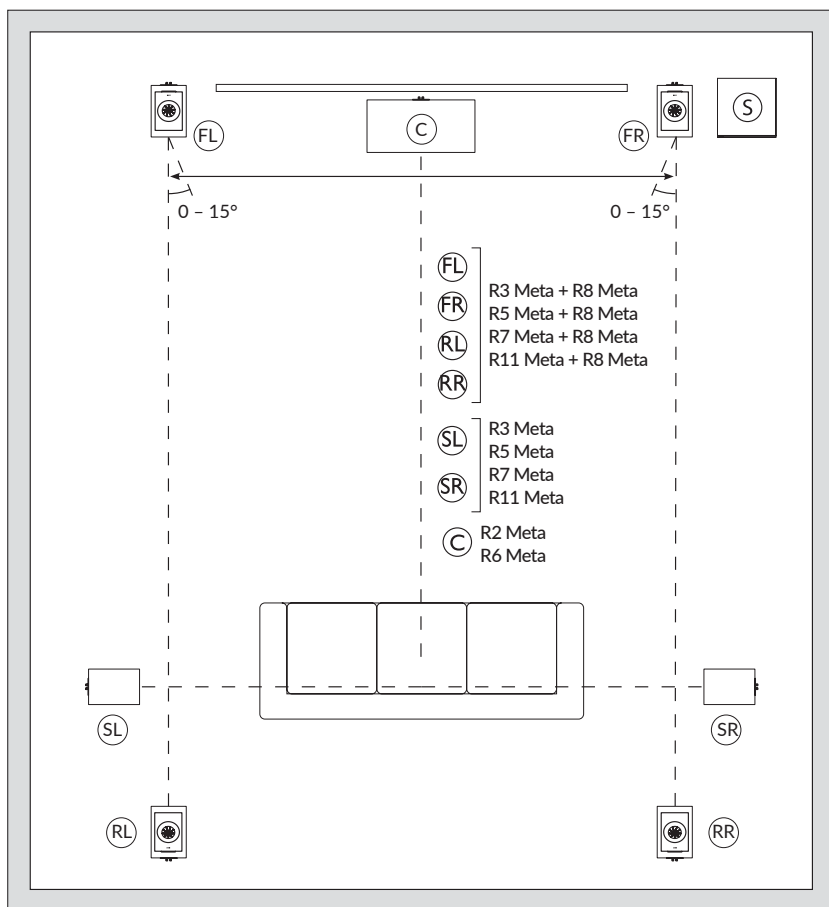


チャンネルの略称：

FL=フロント左、FR=フロント右、RL=リア左、RR=リア右、C=センター、
S=オプションのKEFサブウーファー

5.3.2.3 7.1.4システムの配置

i スピーカーを配置する際は、推奨距離に注意してください。



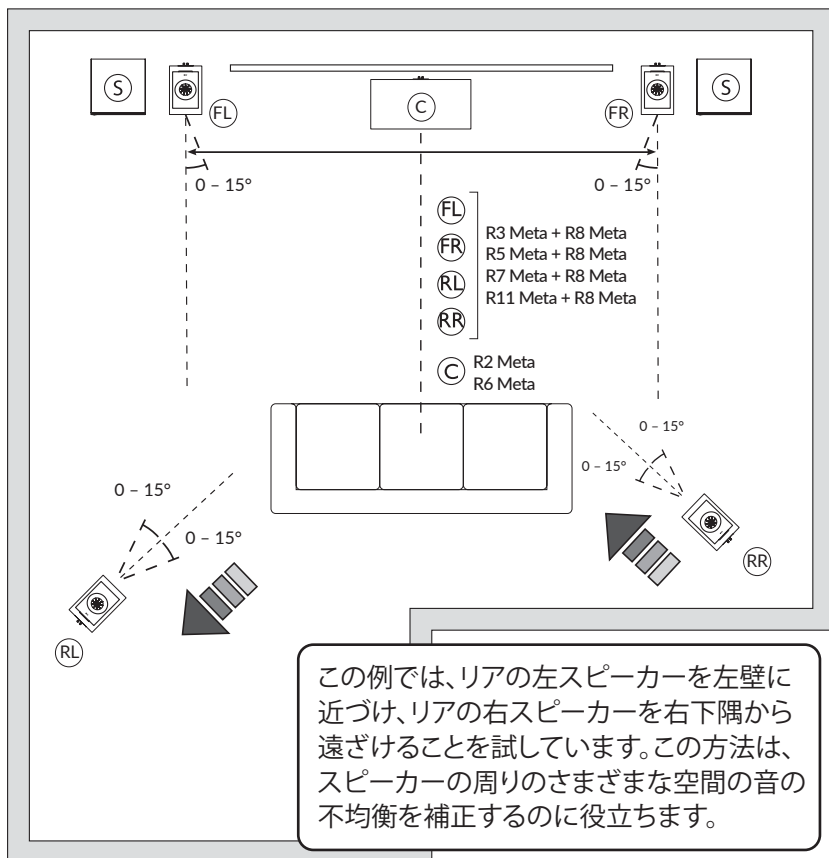
チャンネルの略称：

FL=フロント左、FR=フロント右、RL=リア左、RR=リア右、SL=サラウンド左、SR=サラウンド右、C=センター、S=オプションのKEFサブウーファー

5.4 でこぼこのある部屋での配置

- 各スピーカー周辺の音響環境を一定に保ってみてください。次の例では、リア左スピーカーを左壁に近づけ、リア右スピーカーを右下隅から遠ざけます。この方法は、スピーカーの周りのさまざまな空間の音の不均衡を補正するのに役立ちます。
- スピーカーがリスニングポジションからの距離が異なる場所に配置されている場合は、最良の結果を得るために、AVプロセッサ設定で距離の差を補正することをお勧めいたします。以下の例では、左リアスピーカーは右リアスピーカーよりもリスニングポジションから離れた位置に配置されているため、左リアスピーカーの信号遅延を減らし、振幅を大きくして、音が一方方向に偏らないようにする必要があります。
- スピーカーの配置を微調整する際は、普段よく聴く音楽や映画のシーンを視聴してください。サウンドを最適化するために、スピーカーの位置と角度を微調整してください。

i スピーカーを配置する際は、推奨距離に注意してください。



チャンネルの略称：

FL = フロント左、FR = フロント右、RL = リア左、RR = リア右、C = センター、
S = オプションのKEFサブウーファー

5.5 ルームモードの管理

ルームモードは閉鎖空間で発生する現象で、部屋のさまざまな表面で反射する音波が互いに干渉し合うことを意味します。これらの音波は、互いに建設的または破壊的に干渉し合う可能性があり、その結果、部屋に周波数応答に強いピークまたはディップを生じる可能性があります。スピーカーを配置する際、ルームモードがリスニングエリアの音質と知覚される音色バランスに大きな影響を及ぼす可能性があります。ルームモードは、通常、低周波数範囲（300Hz未満）で最も顕著となり、スピーカーの低音レスポンスに影響を与え、結果としてオーディオの表現を不均一かつ不正確にします。

スピーカーを配置するときにルームモードに対処する方法として、以下で、いくつかのコツをご紹介します。

- ・ サブウーファーを使用する場合は、さまざまなサブウーファーの位置を試し、低音レスポンスが最も均一になる場所を見つけます。
- ・ コーナーや壁と天井、壁と床の接合部に沿って低音トラップを使用して、ルームモードを減らします。
- ・ 拡散パネル（多くの場合、表面が不規則な材料でできている）を戦略的に配置して、音波を分割し、デッドサウンドのスペースを過度に回避します。

6. 接続

注意!

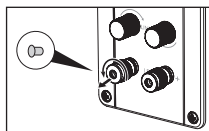
損傷の危険性!

スピーカーの取り扱いを誤ると、破損の原因になります。

- ・スピーカーを接続する前に、すべてのオーディオ機器の電源を切ってください。



バナナプラグを使用してスピーカーを接続する場合は、コネクターのバインディングポストにあるプラスチックキャップが取り外されていることを確認してください。プラスチックキャップは、コネクターの金属製キャップを完全に緩めることで取り外すことができます。



6.1 シングルワイヤーまたはバイワイヤー接続

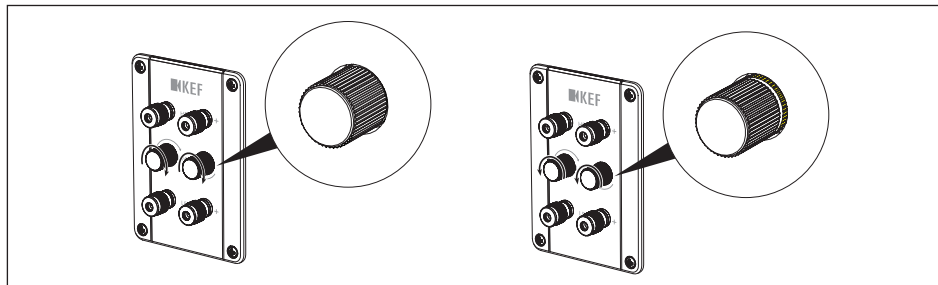
シングルワイヤーまたはバイワイヤー接続を使用して、スピーカーをアンプに接続できます。

シングルワイヤー接続では、2本の導体を備えた標準のスピーカーケーブルを使用して、アンプをスピーカーに接続します。

バイワイヤー接続では、スピーカーごとに2本の別々のスピーカーケーブルを使用します。これらのケーブルは、通常、アンプ側に一對のコネクターがあり、スピーカー側で2つの別々のペアに分割されています。スピーカー側で、一對のケーブルがスピーカーの高周波 (HF) 端子に接続し、もう1組のケーブルは低周波 (LF) 端子に接続します。

KEF Rシリーズスピーカーでは、次のいずれかの接続方法を使用できます。

- ・シングルワイヤー接続を有効にするためには、ノブを完全に締め、リンク接続ノブをノブの基部にある黄色いリングが見えなくなるまで時計回りに回します。
- ・バイワイヤー接続を有効にするためには、リンク接続ノブをノブの基部にある黄色いリングが完全に見えるまで反時計回り(または反時計回り)に回します。



6.2 両増幅

注意!

損傷の危険性!

スピーカーの取り扱いを誤ると、破損の原因になります。

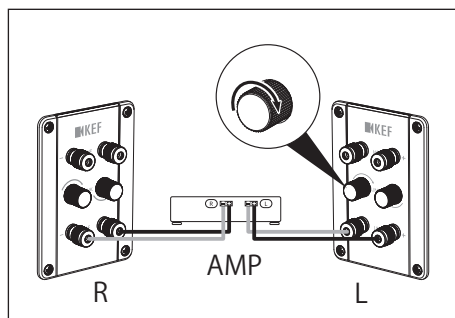
- ・ バイワイヤー接続の手順に従って、リンク接続が切断されていることを確認してください。それをしない場合は機器への損傷を招く可能性があります。

KEF Rシリーズのスピーカーはバイアンプ（バイアンプイング）が可能です。これは、2つの別々のアンプまたはアンプチャンネルを使用して、スピーカー内のさまざまなドライバーに電力を供給する際のスピーカーのセットアップ方法です。

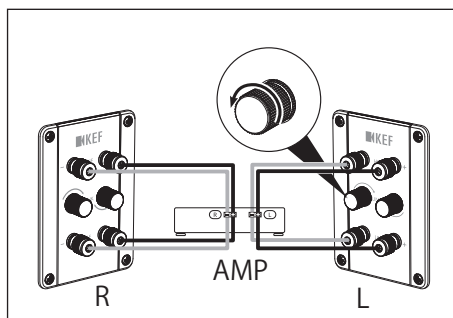
6.3 接続する

6.3.1 R3 Meta/R5 Meta/R7 Meta/R11 Meta

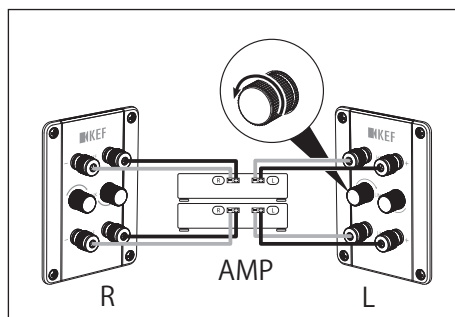
シングルワイヤー接続



バイワイヤー接続



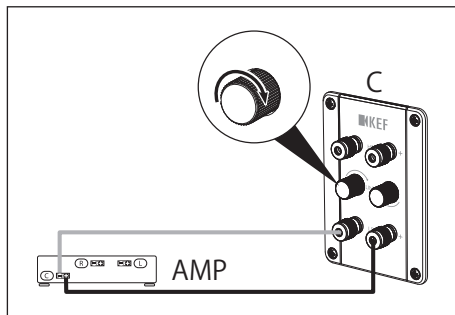
両増幅接続



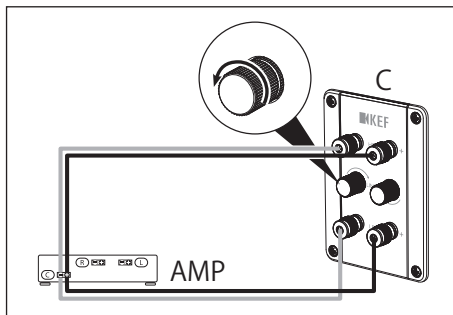
略称: R = 右、L = 左、AMP = アンプ

6.3.2 R2 Meta/R6 Meta

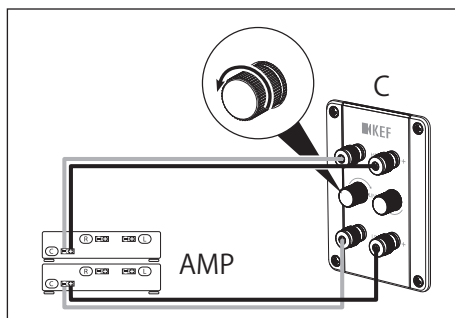
シングルワイヤー接続



バイワイヤー接続

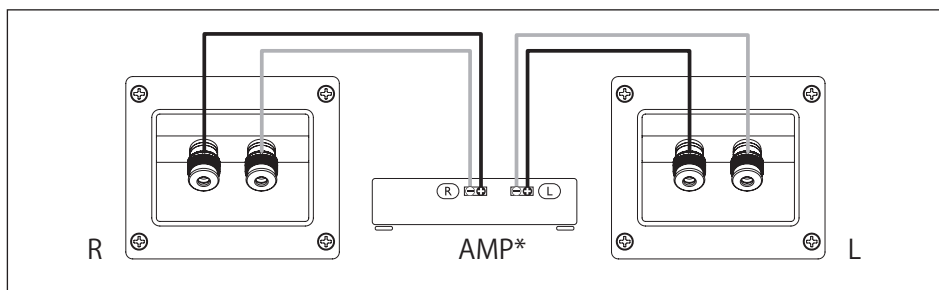


両増幅接続



略称:C = センター、AMP = アンプ

6.3.3 R8 Meta



略称: R = 右、L = 左、AMP = アンプ

*Dolby Atmos対応アンプ

6.4 ケーブルゲージと長さ

最適なオーディオ性能を確保し、信号損失を最小限に抑えるためには、スピーカーのセットアップにおけるケーブルゲージ*と長さの関係が重要な考慮事項となります。経験則では、ケーブルが太い (AWGが小さい) ほど良いです。アンプとスピーカーの間の距離が離れ、ケーブルが太いほど、パフォーマンスが良好になります。

スピーカーの公称インピーダンスとケーブルゲージに対するケーブル長さの推奨事項については、次の表をご覧ください。Rシリーズスピーカーの公称インピーダンスは4Ωです。

米国のケーブル規格	ケーブル断面積 (mm ²)	スピーカーの公称インピーダンス		
		4オーム	6オーム	8オーム
18AWG	0.823	4.9 m / 16フィート	7.3 m / 24 フィート	9.8 m / 32 フィート
16AWG	1.31	7.3 m / 24 フィート	11.0 m / 36 フィート	14.6 m / 48 フィート
14AWG	2.08	12.2 m / 40 フィート	18.3 m / 60 フィート	24.4 m / 80 フィート
12AWG	3.31	18.3 m / 60 フィート	27.4 m / 90 フィート	36.6 m / 120 フィート
10AWG	5.26	30.5 m / 100フィート	45.7 m / 150 フィート	61.0 m / 200 フィート

*ケーブルゲージとは、スピーカーケーブルに使用されているワイヤーの太さや直径のことです。通常、アメリカのワイヤーゲージ (AWG) またはミリメートルの平方 (mm²) で測定されます。

7. 微調整

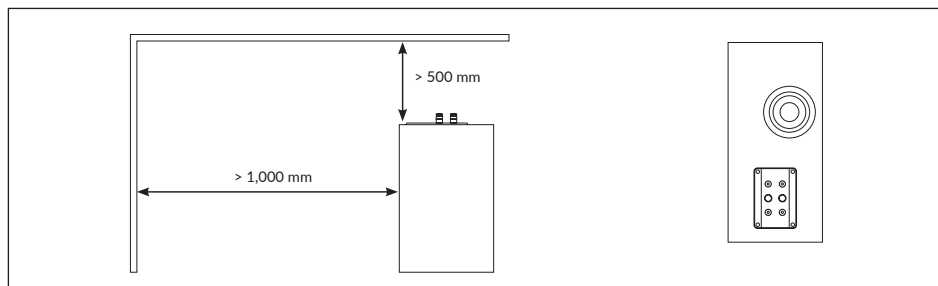
微調整するには実験が重要となります。さまざまな位置と音量レベルでスピーカーを聴き、各調整の影響を評価します。最適に聴こえるように、十分な時間を取ってじっくりと調整することをお勧めいたします。

7.1 ポート栓

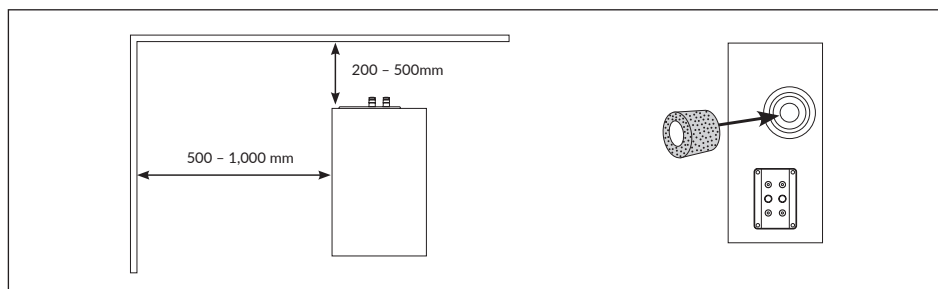
リスニング環境やお好みに合わせてスピーカーの低音特性をカスタマイズするには、付属のポート栓を使用してください。

スピーカーが壁に近すぎる場合は、ポート栓をお試しください。

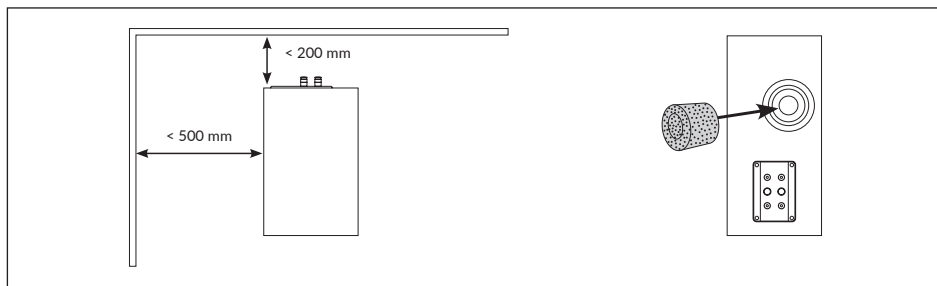
- 一般に、壁までの距離が下図の仕様よりも大きい場合、ポート栓は必要ありません。



- ポート栓の外側リングは、壁までの距離が下の図の範囲内にある場合での使用をお勧めいたします。



- ポート栓の外側リングおよびセンターコアは、壁までの距離が下図の仕様よりも小さい場合でのご使用をお勧めいたします。



複数のポートを持つモデルの場合は、ポート栓のさまざまな組み合わせを試すことができます。

ポート栓を取り付けて、さまざまな種類の音楽やオーディオコンテンツを再生し、低音レスポンスの変化を聴いてどちらがお好みであるかをご確認ください。

7.2 調整済みの足を使用する

以下の仕様の調整済みの足は、Rシリーズスピーカーの台座に適合します。

- M8 ピッチ 1.25 18mm (R5 Meta、R7 Meta、R11 Meta)
- M8 ピッチ 1.25 15mm (R3 Meta)

8. ならし運転

ならし運転（スピーカーのブレークインまたはバーンインとも呼ばれます）は、新しいスピーカーを最適なパフォーマンスレベルに調整する際の手順です。

スピーカー製造時は、各部品は比較的硬く、剛性があります。スピーカーでならし運転するには、一定時間スピーカーを介してオーディオを再生し、各部品が緩んで通常の動作状態に落ち着くようにします（スピーカーサスペンションの柔軟性が高まるなど）。

スピーカーでならし運転する際のポイント：

- 適度な音量で音楽の再生を開始し、徐々に音量レベルを上げます。
- 慣らし運転中にさまざまな音楽ジャンルとオーディオコンテンツを再生して、あらゆる周波数範囲が適切に実行されていることを確認します。
- 十分な時間を取り、じっくりと慣らし運転することをお勧めいたします。持続時間はスピーカーのデザインと使用する材料によって異なります。ただし、通常、連続再生時間は、数時間から数日間の範囲です。

9. お手入れとメンテナンス

注意!

損傷の危険性!

スピーカーの取り扱いを誤ると、破損の原因になります。

- ・スピーカー筐体に水などの液体が浸透しないようにしてください。
- ・スピーカーを水などの液体に浸さないでください。
- ・強力なクリーナー、金属やナイロンの毛のブラシ、ナイフや硬いスクレーパーなどの鋭利な器具、金属製の器具を使用しないでください。表面を損傷する可能性があります。

9.1 スピーカーの清掃

1. スピーカーの表面は、糸くずの出していない、清潔な布で拭いてください。必要に応じて、アルコール不使用のクリーナー（画面用クリーナー、眼鏡レンズクリーナーなど）を使用して、頑固な汚れを取り除きます。
2. Uni-Qドライバー（スピーカーコーン）をクリーニングするには、帯電防止クリーナーと柔らかいスポンジを使用してください。力を入れすぎるとドライバーが破損する恐れがありますのでご注意ください。

9.2 マイクロファイバーグリルの使用と保管

- ・グリルをねじったり、曲げたり、落したりしないでください。
- ・グリルを直射日光にさらさないでください。
- ・使用しないときは、グリルを平らにするか、元の梱包箱に入れて保管してください。

9.3 マイクロファイバーグリルの清掃

- ・汚れを落とす際は、乾いた柔らかいブラシを使用して、グリルの表面を一方方向に拭いてください。
- ・汚れを落とす方法:

1. 湿った、糸くずの出ない布または天然スポンジのみを使用して、軽くたたいて汚れを拭きます。

汚れが広がったり深く入り込んで跡になったりする可能性があるため、こすらないでください。

染み抜き剤や洗剤は使用しないでください。

スポンジを使用する場合は、きれいな水ですすぎ、よく絞ってから拭いてください。

2. グリルを風乾させてください。熱は加えないでください。

10. 廃棄

10.1 梱包資材の廃棄

廃棄する前に梱包資材を分類してください。板紙、段ボール、包装材は、自治体の従って廃棄してください。

10.2 スピーカーの廃棄

古い電化製品を家庭ごみとして処分することはできません！

スピーカーは電子製品であるため、家庭ごみとして処分できない可能性があります。スピーカーを廃棄する際は、お住まいの市町村のルールに従ってください。これにより、電化製品の専門的なリサイクル方法と、環境への悪影響の緩和を確保できます。

11. よくある質問とトラブルシューティング

11.1 一般

1. スピーカーのシリアル番号を見つけるには？

- ・シリアル番号は、梱包箱の側面に付いているバーコードラベルのいずれか一つの近くにある梱包箱に記載されています。また、スピーカーのリアパネル（スピーカー端子が配置されている場所）でも見つかります。

2. どのスピーカーケーブルの種類がお勧めですか？

- ・高品質の無酸素銅または高純度の銅導体で作られたスピーカーケーブルを検討してください。それらは、酸化を最小限に抑え、導電性を高めるように設計されています。
- ・高品質の絶縁体を備えたスピーカーケーブルのご使用もご検討ください。信号の干渉を減らし、正確な信号伝送を確保できます。

3. 推奨されているスピーカーケーブルの直径はどのくらいですか？

- ・一般に、アンプからスピーカーまでの配線が長いほど、ケーブルゲージは低くなります。「ケーブルゲージと長さ」の章を参照してください。

11.2 床置き型スピーカー

1. 台座（トラバースレグ）なしでスピーカーを使用できますか？

- ・台座のご使用を強くお勧めいたします。台座は、より安定した基盤を提供し、スピーカーが転倒するのを防ぐのに役立ちます。

2. 台座のスパイクとネジのスレッドサイズはどれくらいですか？

- ・M8 (1.25mmピッチ)

3. 付属のスパイクの代わりに他のスパイクをスピーカーに使用しても良いですか？

- ・サードパーティの同じ仕様のスパイクをご使用いただけます。

4. 台座の下部にあるネジ穴はどのくらい離れていますか？

- ・「[寸法図](#)」を参照してください。

11.3 本棚（ブックシェルフ）やスタンドに設置されたスピーカー

1. R3 MetaをS3スタンドに取り付けるためのネジのサイズはどれくらいですか？

- ・M8 (1.25mmピッチ)

2. スピーカーの下部にあるネジ穴の深さはどれくらいですか？

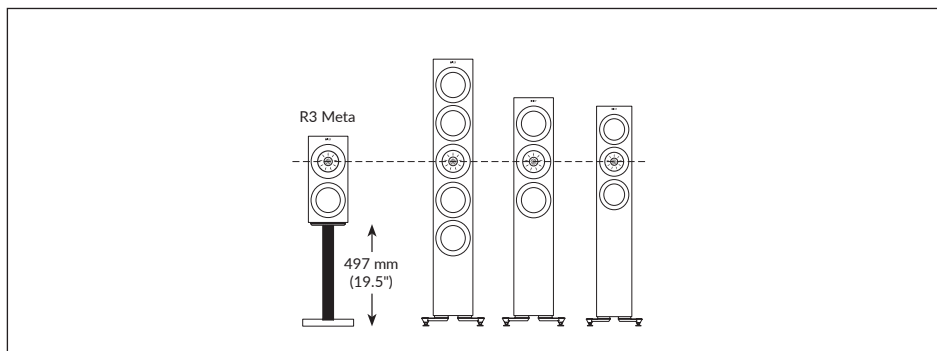
- ・18mm

3. スピーカーの下部にあるネジ穴はどのくらい離れていますか？

- ・「[寸法図](#)」を参照してください。

4. R3 Metaのスタンドの高さは、Uni-Qドライバーが他のフロアスタンドスピーカーと揃うようにするために、どれくらいにすべきですか？

- ・ 497mm (19.5インチ) のスタンドをご使用ください。



11.4 LCR (左/中央/右チャンネル)

1. 足を外すことは推奨されていますか？

- ・ 防振と、部屋や他の物体からスピーカーを分離するために、付属のゴム足を取り付けてください。

2. センタースピーカーを上向きに設置する必要はありますか？

- ・ Uni-Qドライバーアレイの分散が広いため、一般的にはセンタースピーカーを傾けて耳の高さに合わせる必要はありません。ただし、スピーカーの配置と位置をお試しになり、可能な限り最高のオーディオパフォーマンスを得ることを常にお勧めいたします。

11.5 Dolby Atmosスピーカー

1. トップ/フロントバッフルの角度はどれくらいですか？

- ・ トップ/フロントバッフルの角度は110度です。

11.6 お手入れとメンテナンス

1. スピーカーの清掃方法は？

1. スピーカーの表面は、糸くずの出していない、清潔な布で拭いてください。必要に応じて、アルコール不使用のクリーナー（画面用クリーナー、眼鏡レンズクリーナーなど）を使用して、頑固な汚れを取り除きます。
2. Uni-Qドライバー（スピーカーコーン）をクリーニングするには、帯電防止クリーナーと柔らかいスポンジを使用してください。力を入れすぎるとドライバーが破損する恐れがありますのでご注意ください。

2. 清掃に推奨される清掃用のクロスはどのようなものですか？

- ・マイクロファイバークロスをお勧めいたします。

3. 塗装面の傷を取り除く方にはどうすれば良いですか？

- ・傷が表面的なものである場合（コーティング層にのみ影響を与える場合）、市販の傷除去用の商品を使用すると助けになる場合があります。
- ・カーワックスは、小さな傷を埋めたり、塗装面の全体的な外観を改善したりするのに役立つ場合があります。
- ・傷が深く広範囲にわたる場合は、プロにサポートを求めることをご検討ください。

4. スピーカーに塗られている塗料はどのようなものですか？

- ・ポリエステル塗料またはアクリル塗料をご使用ください。

5. スピーカーに付いたワックスを取り除くにはどうすれば良いですか？

- ・ワックスを冷まし、プラスチックまたは木製のヘラを使用して表面から余分なワックスをやさしくこすり落としてください。
- ・ワックスが引き続き残る場合は、ヘアドライヤーを弱で使用して柔らかくしてからペーパータオルや布で拭き取ってください。

6. 塗装面から油脂を取り除くには、どのような溶剤を使用すれば良いですか？

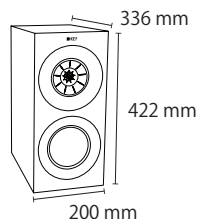
- ・塗料を傷つけたり変色させたりしない、マイルドな溶剤を常に使用してください。マイルドな食器用洗剤溶液、消毒用アルコール、および市販の脱脂剤をお勧めいたします。

12. 別紙

12.1 仕様

R3 Meta

モデル	R3 Meta
デザイン	3WAYバスリフレックス
ドライブユニット	Uni-Qドライバーアレイ： HF: 25mm (1インチ) ベント付きアルミニウムドーム、MAT付き MF: 125mm (5インチ) アルミニウムコーン ベースユニット： LF: 165mm (6.5インチ) ハイブリッドアルミニウムコーン
クロスオーバー周波数	420Hz、2.3kHz
周波数範囲 (-6dB)	38Hz – 50kHz
室内の典型的な低音レスポンス (-6dB)	30Hz
周波数特性 (±3dB)	58Hz – 28kHz
高調波歪み (90dB、1m)	1%未満 73Hz以上 0.5%未満 90Hz – 20kHz
最大出力	110dB
アンプの電力 (推奨)	15 – 180W
公称インピーダンス	4Ω (最小3.2Ω)
感度 (2.83V / 1m)	87dB
重量*	12.4kg (27.3ポンド)
端子付き寸法 (高さ x 幅 x 奥行)*	422 × 200 × 336 mm (16.6 × 7.9 × 13.2 インチ)

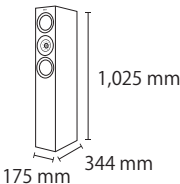
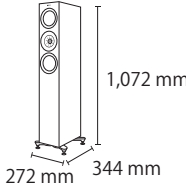


仕上げ

ブラックグロス/ホワイトグロス/ウォールナット/インディゴグロススペシャルエディション

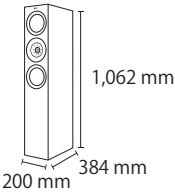
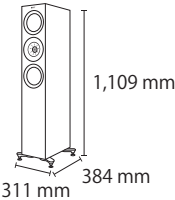
*ユニットあたりの測定値

R5 Meta

モデル	R5 Meta
デザイン	3WAYバスリフレックス
ドライブユニット	Uni-Qドライバーアレイ： HF: 25mm (1インチ) ベント付きアルミニウムドーム、MAT付き MF: 125mm (5インチ) アルミニウムコーン ベースユニット： LF: 2 × 130 mm (5.25インチ) ハイブリッドアルミニウムコーン
クロスオーバー周波数	400Hz、2.7kHz
周波数範囲 (-6dB)	38Hz – 50kHz
室内の典型的な低音レスポンス (-6dB)	29Hz
周波数特性 (±3dB)	52Hz – 28kHz
高調波歪み (90dB、1m)	1%未満 75Hz以上 0.5%未満 110Hz – 20kHz
最大出力	110dB
アンプの電力 (推奨)	15 – 200 W
公称インピーダンス	4Ω (最小3.2Ω)
感度 (2.83V / 1m)	87dB
重量*	24.5 kg (54.0 ポンド)
端子付き寸法 (高さ x 幅 x 奥行)*	1,025 × 175 × 344 mm (40.4 × 6.9 × 13.5 インチ)
	
端子および台座付き寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)*	1,072 × 272 × 344 mm (42.2 × 10.7 × 13.5 インチ)
	
仕上げ	ブラックグロス/ホワイトグロス/ウォールナット

*ユニットあたりの測定値

R7 Meta

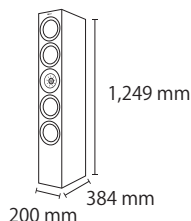
モデル	R7 Meta
デザイン	3WAYバスリフレックス
ドライブユニット	Uni-Qドライバーアレイ： HF: 25mm (1インチ) ベント付きアルミニウムドーム、MAT付き MF: 125mm (5インチ) アルミニウムコーン ベースユニット： LF: 2 × 165 mm (6.5インチ) ハイブリッドアルミニウムコーン
クロスオーバー周波数	400Hz、2.4kHz
周波数範囲 (-6dB)	33Hz – 50kHz
室内の典型的な低音レスポンス (-6dB)	27Hz
周波数特性 (±3dB)	48Hz – 28kHz
高調波歪み (90dB、1m)	1%未満 76Hz以上 0.5%未満 110Hz – 20kHz
最大出力	111dB
アンプの電力 (推奨)	15 – 250 W
公称インピーダンス	4Ω (最小3.2Ω)
感度 (2.83V / 1m)	88dB
重量*	29.3kg (64.6ポンド)
端子付き寸法 (高さ x 幅 x 奥行)*	1,062 × 200 × 384 mm (41.8 × 7.9 × 15.1 インチ)
	
端子および台座付き寸法 (高さ x 幅 x 奥行き)*	1,109 × 311 × 384 mm (43.7 × 12.2 × 15.1 インチ)
	
仕上げ	ブラックグロス/ホワイトグロス/ウォールナット/チタニウムグロススペシャルエディション

*ユニットあたりの測定値

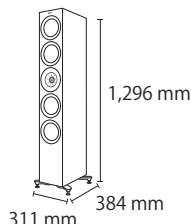
R11 Meta

モデル	R11 Meta
デザイン	3WAYバスリフレックス
ドライブユニット	Uni-Qドライバーアレイ： HF: 25mm (1インチ) ベント付きアルミニウムドーム、MAT付き MF: 125mm (5インチ) アルミニウムコーン ベースユニット： LF: 4 × 165 mm (6.5インチ) ハイブリッドアルミニウムコーン
クロスオーバー周波数	330Hz、2.5kHz
周波数範囲 (-6dB)	30Hz – 50kHz
室内の典型的な低音レスポンス (-6dB)	26Hz
周波数特性 (±3dB)	46Hz – 28kHz
高調波歪み (90dB、1m)	1%未満 33Hz以上 0.5%未満 80Hz – 20kHz
最大出力	113 dB
アンプの電力 (推奨)	15 – 300 W
公称インピーダンス	4Ω (最小3.2Ω)
感度 (2.83V / 1m)	90 dB
重量*	36.5kg (80.5ポンド)

端子付き寸法 (高さ × 幅 × 奥行) *
1,249 × 200 ×
384 mm
(49.2 × 7.9 ×
15.1 インチ)



端子および台座付き寸法
(高さ × 幅 × 奥行き) *
1,296 × 311 ×
384 mm
(51.0 × 12.2 ×
15.1 インチ)

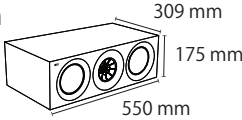


仕上げ
ブラックグロス/ホワイトグロス/ウォールナット

*ユニットあたりの測定値

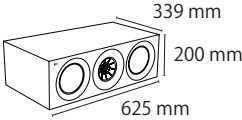
40

R2 Meta

モデル	R2 Meta
デザイン	三方クローズドボックス
ドライブユニット	Uni-Qドライバーアレイ： HF: 25mm (1インチ) ベント付きアルミニウムドーム、MAT付き MF: 125mm (5インチ) アルミニウムコーンベースユニット： LF: 2 × 130 mm (5.25インチ) ハイブリッドアルミニウムコーン
クロスオーバー周波数	560Hz、2.5kHz
周波数範囲 (-6dB)	58Hz – 50kHz
室内の典型的な低音レスポンス (-6dB)	43Hz
周波数特性 (±3dB)	67Hz – 28kHz
高調波歪み (90dB、1m)	1%未満 84Hz以上 0.5%未満 95Hz – 20kHz
最大出力	110dB
アンプの電力 (推奨)	15 – 200 W
公称インピーダンス	4Ω (最小3.2Ω)
感度 (2.83V / 1m)	87dB
重量*	15.4 kg (34.0ポンド)
端子付き寸法 (高さ x 幅 x 奥行)*	175 × 550 × 309 mm (6.9 × 21.7 × 12.2 インチ)
	
仕上げ	ブラックグロス/ホワイトグロス/ウォールナット

*ユニットあたりの測定値

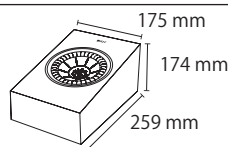
R6 Meta

モデル	R6 Meta
デザイン	三方クローズドボックス
ドライブユニット	Uni-Qドライバーアレイ: HF: 25mm (1インチ) ベント付きアルミニウムドーム、MAT付き MF: 125mm (5インチ) アルミニウムコーンベースユニット: LF: 2 × 165 mm (6.5インチ) ハイブリッドアルミニウムコーン
クロスオーバー周波数	550Hz、2.4kHz
周波数範囲 (-6dB)	55Hz – 50kHz
室内の典型的な低音レスポンス (-6dB)	40Hz
周波数特性 (±3dB)	65Hz – 28kHz
高調波歪み (90dB、1m)	1%未満 65Hz以上 0.5%未満 93Hz – 20kHz
最大出力	111dB
アンプの電力 (推奨)	15 – 250 W
公称インピーダンス	4Ω (最小3.2Ω)
感度 (2.83V / 1m)	88dB
重量*	17.8kg (39.2ポンド)
端子付き寸法 (高さ x 幅 x 奥行)*	200 × 625 × 339 mm (7.9 × 24.6 × 13.3 インチ)
	
仕上げ	ブラックグロス/ホワイトグロス/ウォールナット

*ユニットあたりの測定値

R8 Meta

モデル	R8 Meta
デザイン	双方向クローズドボックス
ドライブユニット	Uni-Qドライバーアレイ: HF: 25mm (1インチ) ベント付きアルミニウムドーム、MAT付き MF / LF: 130 mm (5.25インチ) アルミニウム円錐
クロスオーバー周波数	2.6kHz
周波数範囲 (-6dB)	88Hz – 19.5kHz
室内の典型的な低音レスポンス (-6dB)	–
周波数特性 (±3dB)	97Hz – 17.5kHz
高調波歪み (90dB, 1m)	1%未満 220Hz以上 0.5%未満 320Hz – 20kHz
最大出力	106 dB
アンプの電力 (推奨)	25 – 150 W
公称インピーダンス	4Ω (最小3.2Ω)
感度 (2.83V / 1m)	85 dB
バツフル角	110°
重量*	4.5kg (9.9ポンド)
端子付き寸法 (高さ x 幅 x 奥行) *	174 × 175 × 259 mm (6.9 × 6.9 × 10.2 インチ)



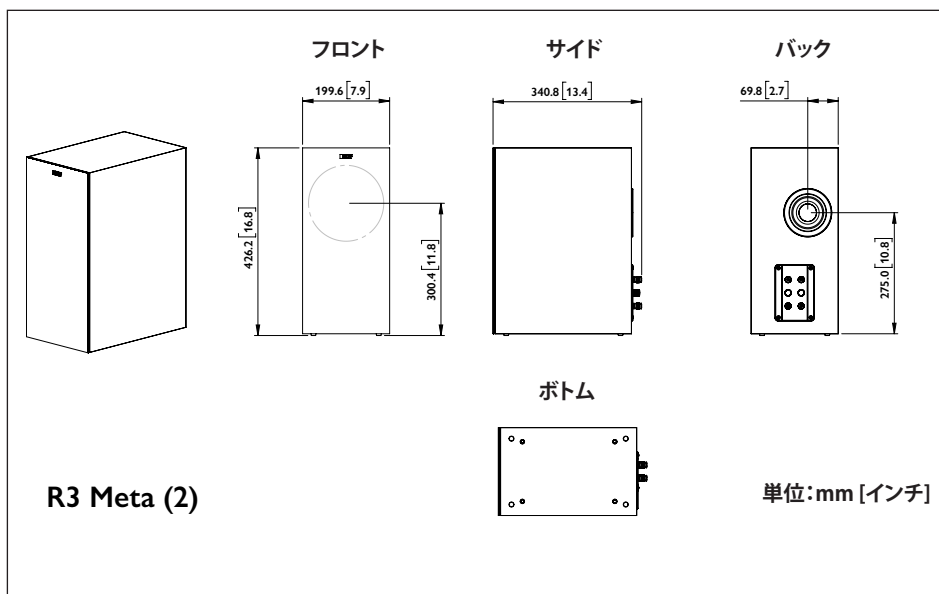
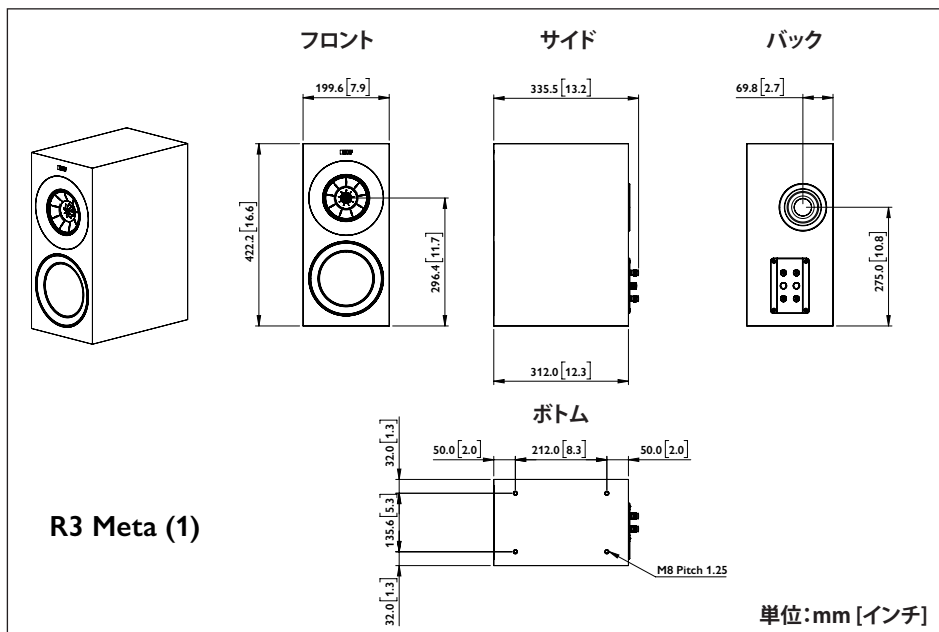
仕上げ ブラックグロス/ホワイトグロス/ウォールナット

*ユニットあたりの測定値

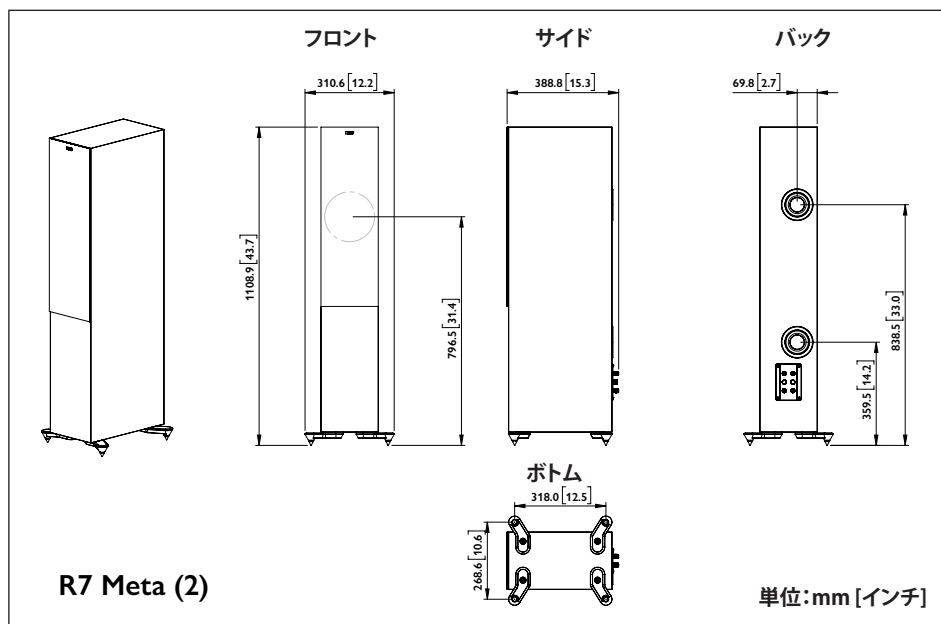
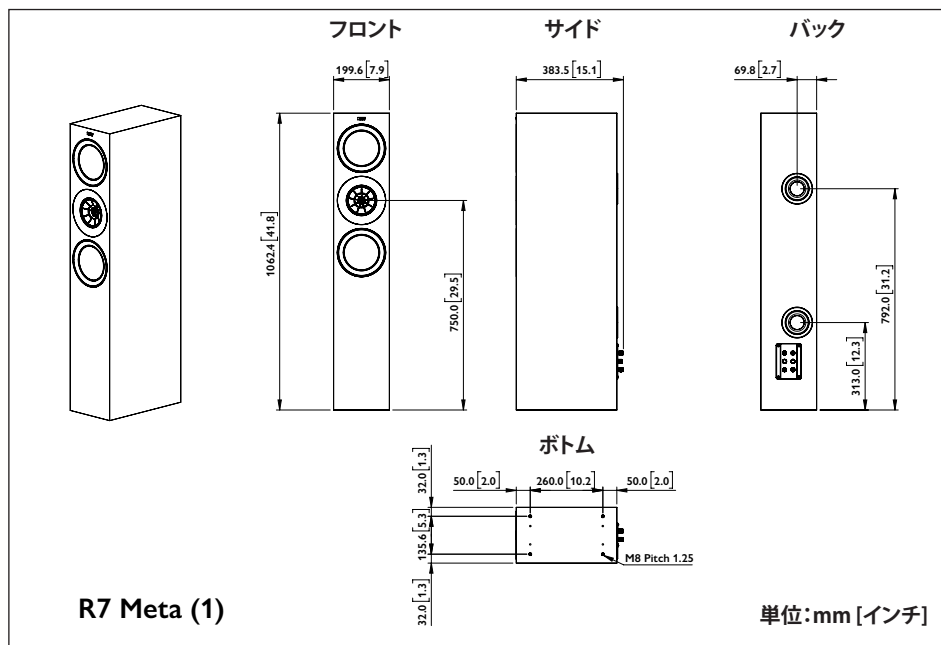
メタマテリアル吸収技術は、Acoustic Metamaterials Groupとの共同開発です。Dolby、Dolby Atmos、およびダブルD記号は、Dolby Laboratories Licensing Corporationの商標または登録商標です。

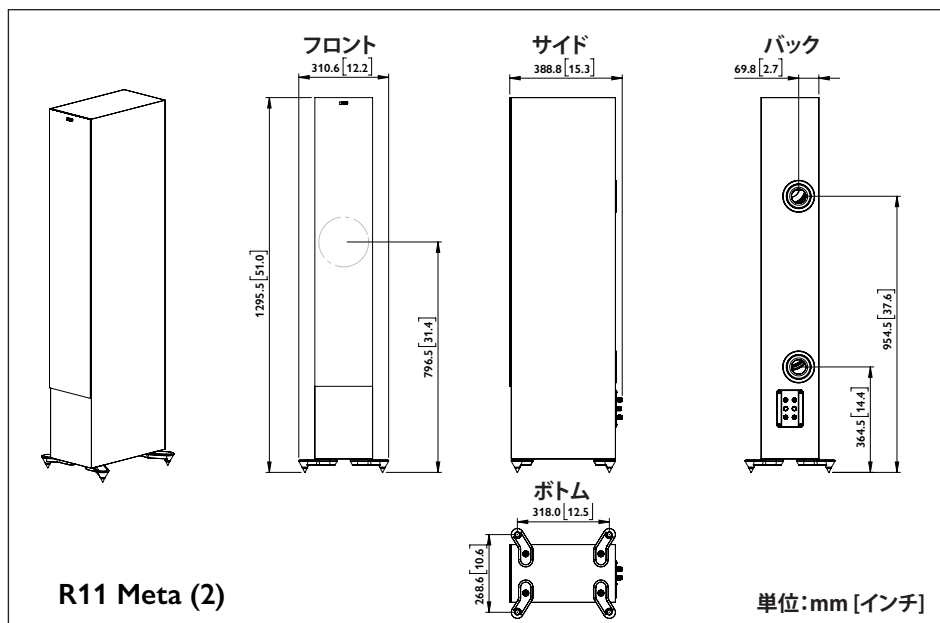
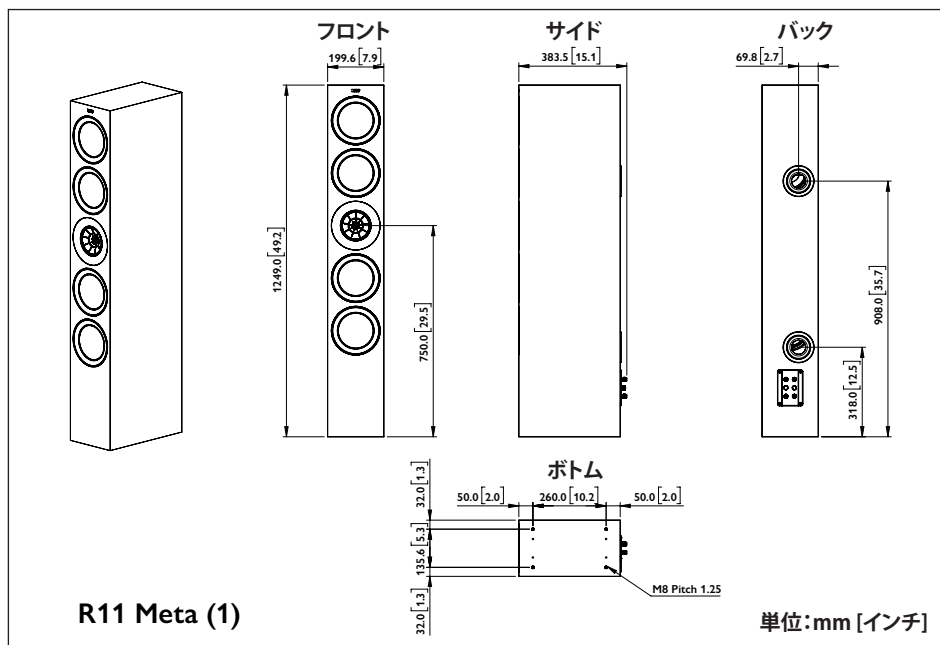
KEFは継続的な研究開発に伴い、仕様を修正または変更する権利を留保します。E&OE (誤字や脱字脱落の免責)

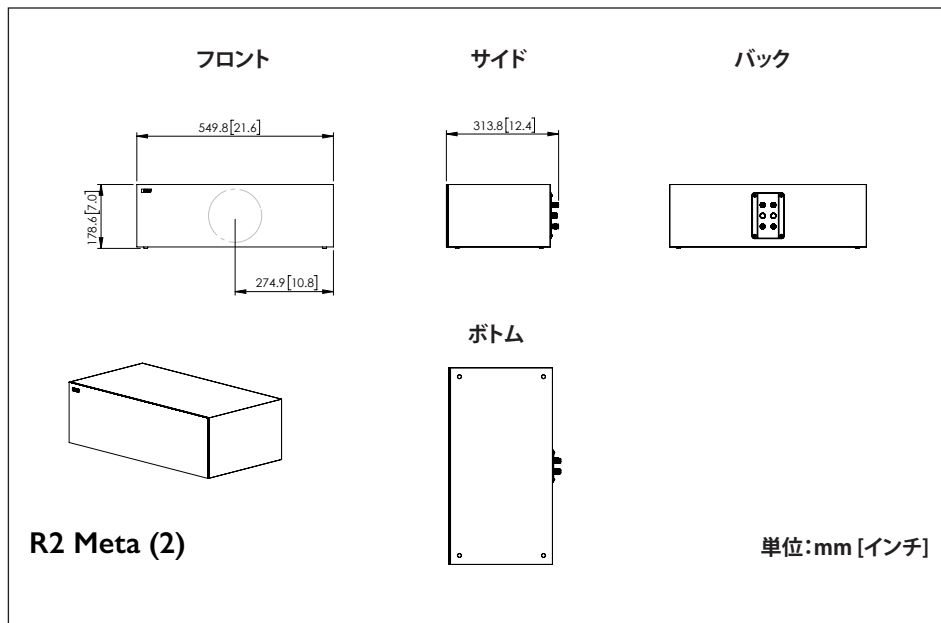
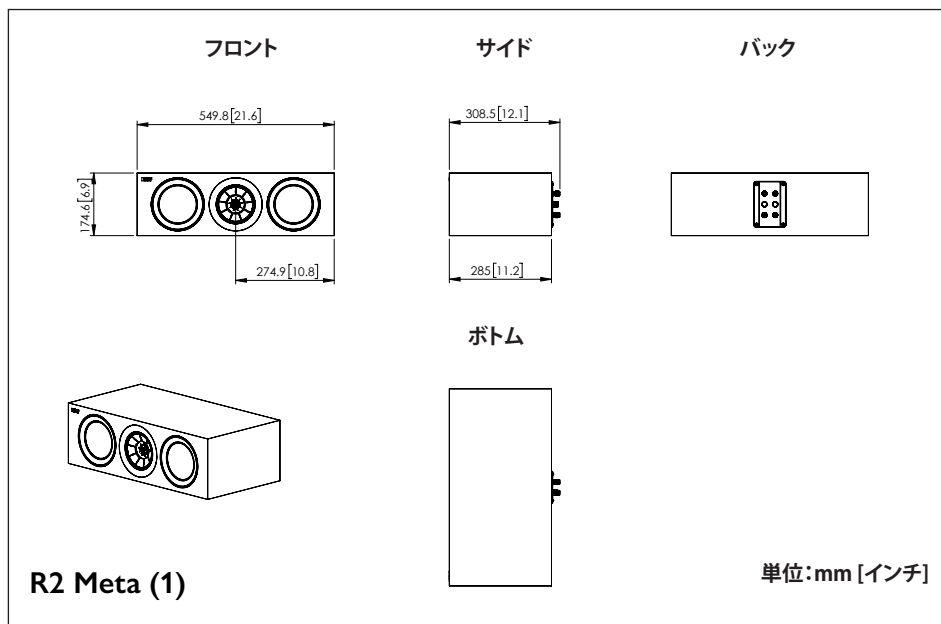
12.2 寸法図

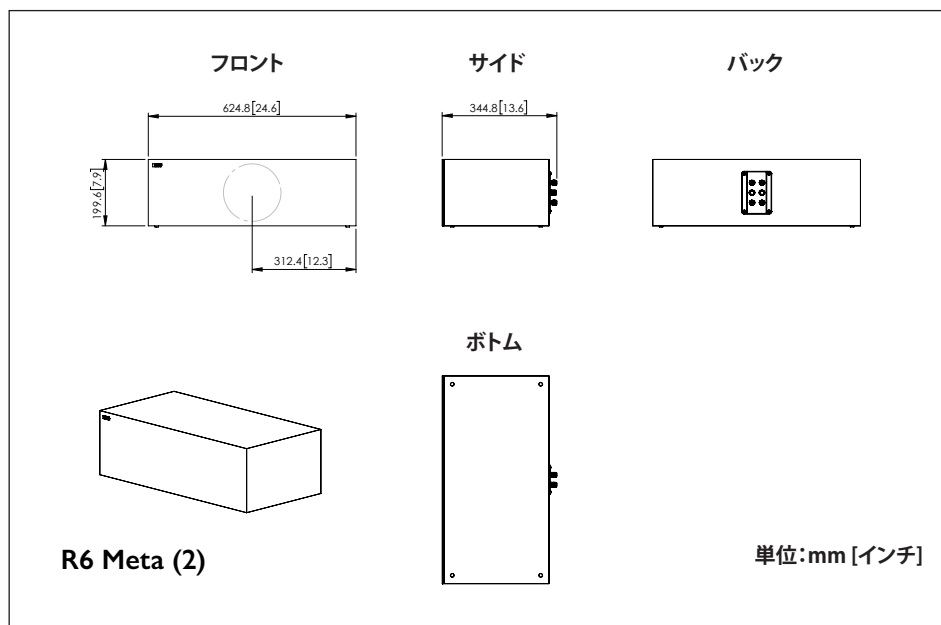
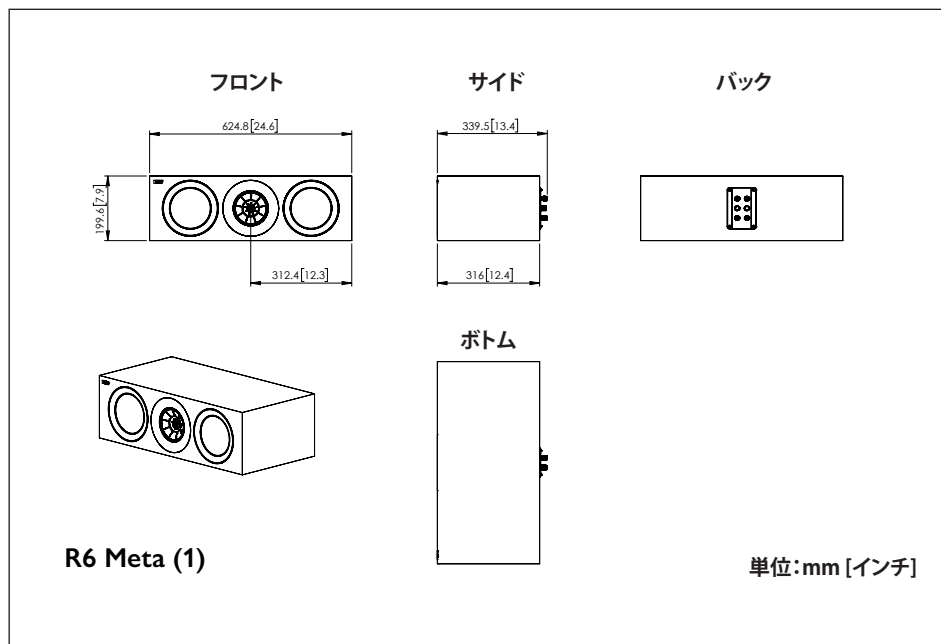




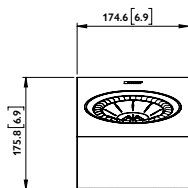




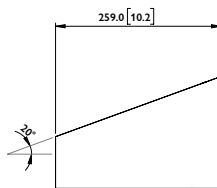




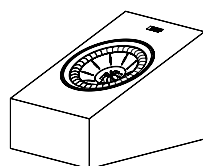
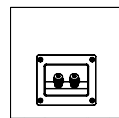
フロント



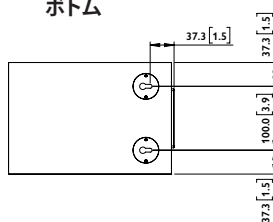
サイド



バック



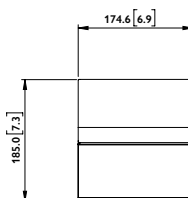
ボトム



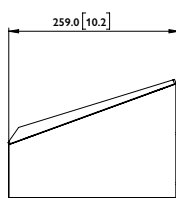
R8 Meta (1)

単位:mm [インチ]

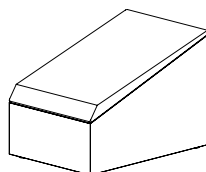
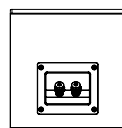
フロント



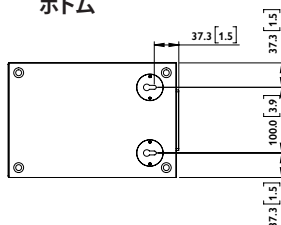
サイド



バック

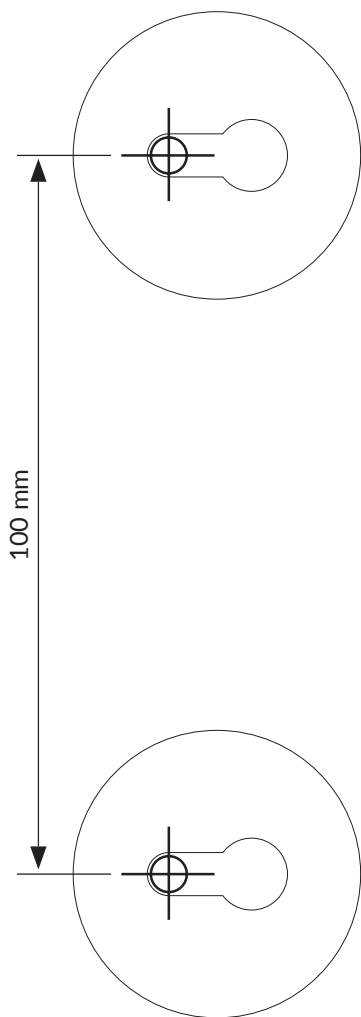


ボトム



R8 Meta (2)

単位:mm [インチ]



R8 Meta
壁取り付けテンプレート
128 mm × 180 mm (高さ × 幅)

その他のサポートについては、
次のウェブサイトをご覧ください kef.com